

<要旨>

2011年3月11日14時46分、戦後最大の自然災害となる東日本大震災が発生してから11年が経過し、被災したまちが復興により再建され、新市街地には新しい商店が次々に建設されるなど人々のにぎわいが再生しつつある。その一方、あれだけの大きな被害が発生したにも関わらず、記憶の風化が進行していることも事実である。東日本大震災は「1000年に一度」と言われる規格外の災害である。1000年後に東日本大震災と同規模の災害が発生した際に、同じ轍を踏むことなく、少しでも人的被害を軽減するためには、被災の経験や教訓を伝承・継承することが重要であり、それは、東日本大震災を被災した者の使命である。

本研究では、現在行われている伝承・継承の活動の問題点や課題を洗い出し、その解決策を提言するとともに、1000年後の後世まで伝承・継承を継続するための手段を考察していく。